

# ゼミで設立した模擬会社夢追プロモーションで地域活性化、支え合いづくり

四日市大学経済学部戦略経営ゼミ

模擬会社夢追プロモーション代表取締役社長 中川 昌大 (4年)

専務取締役 武 暁歆 (3年)

## 1. 模擬会社 夢追プロモーションの概要

### 設立のきっかけ、経緯、構成

2012年1月、担当指導教員の本意(注)を汲み、「新年度からゼミで模擬会社を立ち上げよう！」ということとなり、同年4月27日、本学経済学部東村DiPO戦略経営ゼミ授業において「模擬会社 夢追プロモーション(以下「夢追プロ」)設立総会&記念講演会」が行われた。発起人代表で初代社長に就任した中村一真君(当時3年・2014年3月卒)は「私が模擬会社を興した理由として、地域社会が疲弊しており、我々学生が率先して学内外で雇用創出となり得る活動をし、地域を活性化したいとの思いで、大学という知の結集を最大限活用することにより、地域資源を見出し様々な付加価値を創り出すことが使命である」と設立に至った経緯、抱負を設立総会の挨拶で語った。

以来、“まちを元気にする大学”を具現化すべく地元四日市をはじめ菰野、津、伊勢等において積極的な活動を展開している。夢追プロの事業主体はKnowledge Capitalの企画。教育の一環として商業登記をしないものの定款の作成から設立手続きをはじめ会社法等に基づいた取締役会など実際の運営を行っている。今第3期から代表取締役社長に就任の中川昌大君(4年・ゼミ代表幹事・写真・ベトナムからの中高生と国際交流するゼミ授業)は、「中村一真先輩の疲弊した地域社会を我々学生が率先して学内外で雇用創出となり得る活動をし、地域を活性化したいとの思いを継承、学生らしさ持ち味を發揮していきたい」と抱負、方針を語る。構成する学生たちはフィールドワークを通してビジネス実務を実践で体得し実践的に経営が身に付くよう活動が行われている。現在、4年生が7名(うち留学生4名)、3年生が10名(うち留学生8名)の総勢17名。これまでの業績は、第1期(2012.04.27~13.03.31)当期利益23,420円、第2期(2013.04.01~14.03.31)当期利益37,320円、第3期(2014.04.01~15.03.31)当期利益6,190円(2015.01.31現在)と初年度から黒字を確保。ただ、同社は、実際の株式会社のように利益を目的とはしていない。



## 2. 地域での主な取り組み状況 (2015年1月23日現在)

「“まち”を元気に」を具現化させるべく夢追プロでは事業の企画に精力的に取り組んでいる。以下に、これまでの企画事例の一端を紹介する。

### 企画事例1. 映画制作支援

2011年10月、菰野ムービー上映製作委員会が組成され劇場映画『Good Luck-恋結びの里-』(監督・瀬木直貴 キャスト・山本正成、足立梨花、松永博史、鈴木砂羽、鈴木一真ほか 企画 平野清高、プロデューサー 久保卓巳・伊藤剛ほか)の撮影が11月まで地元四日市市、菰野町で行われロケ隊のスタッフとして愛知淑徳大学学生とともに制作面で後方支援活動を行った。その一員落合利奈(当時2年代表幹事・2014年3月卒)は「一週間ぶっ通しで、ロケ隊に付きっきりで炊事担当が用意した手づくり弁当などをロケ現場に搬



送やロケ隊スタッフのお手伝いは大変だったけど、一つの映画の製作に沢山の人たちが関わりエキストラとして地元の人たちも被写体に加わり町ぐるみで映画が出来上がっていく過程に感銘した。そのうえ、ゼミ担当の先生から授業で映画はコンテンツビジネスの中でも著作権等権利処理関係が非常に複雑で、しかもキャストやスタッフは職人揃いでそれを取りまとめていく監督、最高の演出・雰囲気づくりの裏方助監督の姿を見てリーダーシップの一端を学び、疲れたけど凄くいい経験・体験となった」と参加しての感想を語ってくれました。

## 企画事例2. がんばる商店街支援

2011年、経済産業省中小企業庁のがんばる商店街70選に三重県下では四日市諏訪西商店街と伊勢高柳商店街が指定され同年10月、伊勢の祭りのまつりで伊勢市の中心市街地商店街の一つ高柳商店街での「B級グルメフェスタ」会場でゆるきゃら着ぐるみに皇學館大学とともに参加。続いて、高柳商店街の大正時代から続く歴史ある夜店に「四日市大学の日」を設定、出展・出店。2016年には100回目・百年となる、1・6・3・8のつく日と土曜日に開催される習わしで夏の風物詩となっている。

12年6月、高柳商店街の夜店「四日市大学の日」空き店舗会場に出展、フリーマーケットを出店した。

13年6月、菰野町商工会会員里山こもんず(代表 小森 豊)と一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会(会長 新田義孝)で地域連携コラボ商品として開発、同社が製造、夢追プロがネーミングし販売「ゆりちゃんのOh!ジャム」、「ゆうき君のはちみつにんにく」、「さとじーの特製大判焼き(たまねぎジャム入りほか)」は好評を博しました(写真)。この商品は、研究会が専用農場で収穫したタマネギとニンニクを使い、同社が製造したオリジナルなもの。またブースで好評だったのは、2012年に引き続き本学関孝和数学研究所(所長 上野健爾)が作成したパズルと高橋教授によるヴァイオリン演奏でした。18時から、昨年に引き続き学生で結成した「まちをきれいにし隊」が商店街を巡回しゴミを丁寧に拾う姿は、範たると好評でした。



### 「笑いで健康」をテーマに地域で支え合いづくりの場、居場所づくり

13年5月から昼のプレゼントとして本学9号館エントランスにおいて地元落語家による「かよう寄席」高座を開いてきた(ねむ亭安楽さんの高座・写真・上)。今期は、協創ラボ事業の一環として北勢地域インタープリター協会(代表 川合延雄)と連携して今期からさらに四日市本町通り商店街の「市民寄席」企画に賛同、事業企画を進めながら参加している。まず、7月6日、高柳商店街・第98回「高柳の夜店」に四日市大学が参加した。「四日市大学の日」が夜店の最終日、しかも日曜日であったためか、雨模様にも関わらず幼小、中学生や高校生、カップル、家族連れなど多数の人出で賑わった。ことに今回は、本学と地域団体との連携プロジェクトとして学内機関で本戦略経営実証検証研究「地域起業型リーダーの養成で模擬会社による地域活性化と支え合いづくり」の実践事業が「協創ラボ」に承認され、その企画第1弾で出展・出店。企画は、夢追プロが行い「笑いで健康」をテーマに商店街の空き店舗を第2会場とし四日市大学お笑い演芸館と命名、「かよう出前寄席」と称して落語とコント・トークを行い2回公演、58名が来場され大盛況でした。中川社長の挨拶で始まり前座を務めるコントはねむ亭師匠の弟子門下生でねむ亭鋒楽さんが女装で、ねむ亭郭楽さん(いずれも当ゼミ3年)息ぴったりの演技を披露「コンビ結成は僅か1ヵ月ですがねむ亭師匠の指導のおかげです」と謙虚に話すのは創作脚本を書いた魏鋒くん(当ゼミ3年)。落語は、NHKためしてガッテンでもお馴染みの「笑いの効用」がご専門の寺子家志笑さん(鈴鹿医療科学大学教授)が「代書屋」、四日市市本町商店街コミュニティサロンいせや市民寄席でお馴染みのねむ亭安楽さんが「転失気」などを披露、場内は笑いに満ち溢れたひとときとなった。店内では、学部のパネル展示を行い、店前では、本学関孝和数学研究



所が制作したパズルを今年も出品、小中高生に交じって大人も夢中になってのチャレンジで好評でした。また、高橋正昭先生（環境情報学部）が街頭生演奏に来場勸奨の花を添え、不用品を持ち寄りフリーマーケットを開いた。市民に親しまれている夜店、今年で3回目の「四日市大学の日」でしたがポスターや折り込みチラシが大々的に配られ、「商店街にお笑いをと夜店に新しい風」「まちを元気にしてくれそうな大学」「案内のおかげで初めて落語を聴かせていただきました。浅草に行ってもいつも芝居小屋の前を通るだけで、時間がなかったのです。あのお二人の落語愛好家はどんなご専門なのかとちょっと興味がわきました。四日市大学の日、来年も楽しみにしています。」など来場者からご感想をいただいた。少子高齢化は、まちの商店街が歩いて行ける利便性から生活の身近な存在として再び中心商店街に活気を取り戻すチャンスであると捉え地域で支え合う生活・経済の場づくり、仕組みづくりのイベントを通して目に見えたカタチでの展開を目指して活動している。

10月12日、居宅介護支援施設「すこやか」ボランティアフェスタ（四日市市生桑町）では催しの一部を企画、学生たちがバナナのたたき売りを行い笑いの垣塙（写真・上）。留学生は、母国語で行い通訳を行う面白さが地域の人たちに受けた。同17日、四日市市本町商店街コミュニティサロンいせや「市民寄席」（写真・下）においても高座の前座でバナナのたたき売りのパフォーマンスを披露、12月17日には、来場者に抽選でリンゴをプレゼントしました。



### 企画事例3. 難題を分かりやすく寸劇で表現

2012年9月、第21回「全国ボランティアフェスティバルみえ」（三重県社会福祉協議会主管）が皇學館大学（主会場 津・三重県総合文化センター）において開催され分科会9市民後見一自分らしく生きるために—財産管理、身上監護をテーマに寸劇にして表現（脚本・山腰由紀子、演劇指導・美里けんじ、音楽・高橋正昭）、シンポジウムをより理解されやすく努めた。13年5月、アストプラザ津ホールにおいて三重県行政書士会を母体に設立されている三重成年後見サポートセンター主催で市民公開講座が開催され担当指導教員の講演に先立ち「若者から見た成年後見制度」と題して寸劇でのエピソードや財産管理、身上監護の問題、成年後見制度の理解度などをトーク形式でゼミ学生たちが話し称賛評価を得ました（写真）。



### 企画事例4. 地域資源の活用

地域を元気にしたいとの思いが人一倍強い夢追プロのゼミ生たち、地域で頑張る人を見ると応援したくなり11年10月、菰野町の名産「まこも」、13年6月、四日市市大矢知地区の名産「大矢知そうめん」業者古市典夫手延製麺所（代表 古市典夫）と大学研究会とのコラボを企画、一部が商品化に至り13年6月、10月地域新商品として販売した。13年4月、夢追プロでは、ビジネスプランを学内外に公募、取締役が公開の場で採択の可否を判断。7点応募があり1点を13年度事業として採用した。

### 企画事例5. 道の文化再発見

江戸時代、東海道富田間宿（四日市市）と中山道武佐宿（滋賀県近江八幡市）を結ぶ往環道「八風街道」は近江商人と伊勢商人が行き交うあきんど道であった。この歴史街道は、東西交通の要衝として道の文化、風土、情報の発信地であったことで知的財産の宝庫である。地域資源の見直し、再発見で八風街道沿線を「21世紀の成長軸—課題解決先進地—」と捉え滋賀県、三重県、沿線自治体、地域関係団体と連携して研究成果へと企画提案している。



### 企画事例6. 知の還元 情報発信

「NISA（少額投資非課税制度）ってなあに？」、「クラウドファイナンス（Crowd Finance・ネットによる小口資金調達）ってなあに？」など話題を分かりやすく出前講

座を企画、また、同年7月、夕涼みセミナー「シンポジウム四日市地域の観光を考える」を地域関係団体と企画、示唆に富んだ議論内容で話題を集めた。

12年度の本学よんよん祭（四日市大学&四日市看護医療大学合同祭）開催日（10月）に、地域の団塊の世代の方々と本学の教職員有志が、本学の活性化と地域連携の在り方について自由討論を行ったのがきっかけとなり、懇談会が発足、名称を「四日市大学と地域を考える懇談会」（主宰・環境情報学部新田義孝特任教授 以下略称・「四懇会」）とし、その後、2~3か月に一度の頻度で会合し、毎回10名以上の参加を得て、話し合いを進めてきた。懇談会では、様々な提案がなされる。「ふるさとキャリア塾を創ろう」、「産業デザインセンターの設置を」、「地域リーダー養成講座を開こう」、「地域で話したい人の話を聞く機会をつくろう」、「スマートフォンを活用して自治会に民意を反映するきっかけを与えよう」、「四日市大学に落語研究会を」、「四日市の観光を考えるセミナーを開こう」など一例。この中から次の内容が採用され実施された。

13年2月16日、四日市八郷地区自治体に対するスマホ活用講習会、4月本学学生を対象としたスマホ活用講習会（本学9号館エントランスホール・夢追プロ運営協力）、13年5月から大学一般公開講座開講日に合わせてお昼の時間を利用して「昼のプレゼント八風かよう寄席」（本学9号館エントランスホール・大学所在地名「萱生町」から来学促進、地元落語愛好家ねむ亭安楽さん、五尺坊申志さん、寺子家志笑さんによる高座を行った（5月、6月、7月）。7月14日、四日市大学夕涼みセミナー（本学9号館9101教室）を開催。同セミナーでは、四日市地域の観光の在り方をシンポジウムでパネラーによるディスカッションを行った。ゼミ担当指導で模擬会社監査役の東村による特別講演「遷宮と経済」の後、四日市案内人協会、メディアネット四日市、四日市地域まちかど博物館推進委員会、北勢地域インタープリター協会、コンビナート夜景クルーズ語り部の会などの活動報告と将来展望がそれぞれ語られ、相互に意見交換を行い、相互協力こそが一層の発展になるという見解の一致で締めくくった。本セミナーは、四日市市、四日市観光協会、四日市商工会議所、四日市港管理組合、四日市市自治会連合会、四日市大学社会連携センターが後援、学生で運営する夢追プロ中川現社長が開催挨拶した。

今期は、9月、四懇会が「協創ラボ」に承認され10月25日、よんよん祭（大学祭）での催しとして「持続可能な地域社会づくりの構築に向けて」と題して第2回四懇セミナーを開催。本ゼミ担当指導教員が「神宮から学ぶ循環型システムの重要性」と題した基調講演に始まり、地域で活躍しているリーダーの方々に、環境・エネルギー、生物多様性、防災・安全、地域文化財、里山保全、地域づくり・人づくり、自治会活動などを語りあった。また、本学4年の卒業研究「こうして四日市は生まれ変わる：多世代共生と起業の観点から」が締めくくりの報告となった。四懇会をベースとした協創ラボ（環境情報学部千葉 賢教授）は、本学の中で地域課題解決へ実効性のある存在として期待される。

### 3. 本学が今年度文部科学省地（知）拠点整備事業に採択 夢追プロ等がより積極的活動へ 今後の活動方針

大学が所在する四日市市八郷地区、新興住宅地と言われてきた丘陵住宅街においても少子化とともに高齢化が忍び寄り日々の生活において様々な問題が顕在化ないし内包してきている。特に、高齢社会と地域産業問題は経済的基盤をも揺るがしかねない、「一人でも安全で安心の暮らし、まちづくりの実現、地域コミュニティの中核的存在として本学の社会貢献機能強化を図ることを目標に本ゼミ学生が設立した夢追プロが果たす役割は極めて大きく社会貢献学会大会において3年連続で活動状況発表を行ってきている。



今後、大学改革の一環として事業採択され地（知）の拠点整備事業の本格化が図られることから地域に根ざした形でのより地域活性化に繋がる活動が要請される。少子高齢社会と地域産業を地域研究「八風街道」のメインテーマとして行きたい。「21世紀の成長軸は八風街道―課題解決先進地―」と位置づけ、日本を取り巻く環境の変化 5つの構造変化 1. 人口構造の変化、2. 社会構造の変化、3. 経済構造の変化、4. 生活構造の変化、5. 情報構造の変化、日本社会、国民行動の4つの方向性として i. 縁、ii. 座、iii. 連、iv. 結 時代認識 モノが沈み、カネが浮いた1980年代以降は20世紀型システムの残像、金融の肥大化は危機、カネが沈み、人が浮く、21世紀は循環型システム社会 成長の源泉は人であり（人財・人本主義）。なぜ、八風街道なのか？八風街道の歴史 潮流の変化「Age」ではなく「Era」生活、事業サポートサービスビジネスが開花期、グローバル化はローカル化へ 文化 地域資源 知識階級

層 団塊世代のリタイヤ 地域特性 住宅地、近郊農業 6次化、四日市は、石油化学、電機・輸送用機器産業を中心に産業集積 地域の特性キーワード「士(師)」「サムライ・専門職」族、職人 情報弱者・交通弱者、新興成金、高感度地区、賢い生活者、行動力、地域活性化のキーワードは、出る杭は打たず周りから叩いてやり若葉の芽(若者・馬鹿者・変わり者・女性)は摘まないこと。京都・大阪・神戸の関西圏と名古屋圏が重なる「といなか」、日本の成長は、生活スタイル、日本社会の縮図は近江商人、伊勢商人を生み育てた八風街道、文化人、木地師も育った。両商人とも経営理念・哲学を有し非財務情報を尊重、競争優位は「質」品格にあり、仮説の検証として「八風街道」から地域イノベーションを創発へ世界を見つめ地域を考える夢追プロは、21世紀の成長軸「八風街道」の要に本学がある。13年度から全学的なカリキュラム改革を断行しており地域連携の視点で「地域産業の活性化」、「地域課題の解決」、地域で支え合う「新しい公共」の担い手として安全で安心な生きがいのある暮らしやすい課題解決先進地実現に向け「地域で生きる力」を醸成へ先導していく。一人ひとりの気持ち心が変われば行動が変わる、行動が変われば地域も変わる、地域が変われば活性化へと歩む。地域貢献に取り組む夢追プロの活動にご期待ください。

#### **注 地域イノベーションを創発できる起業型リーダー人材の養成が急務**

大学が所在する三重県は、我が国のほぼ中間に位置し南北に約170kmに及ぶ長い地形から自然に恵まれた地理的、自然的条件を背景に、古くから伊勢神宮をはじめとする「こころのふるさと」の地として、産業、経済、文化など様々な分野においてその影響を受けつつ発展を遂げてきた。しかも我が国の三大臨海工業地帯及び三大都市圏のいずれにも絡み、地理的に中京<名古屋>都市圏50キロ圏内に桑名、四日市、鈴鹿などの北勢地域、京阪神<京都・大阪・神戸>都市圏50キロ圏内に伊賀、名張など伊賀地域が属し、しかも三重県は東海、関西あるいは中部、近畿地方の双方に含まれ、地理的にも恵まれた地域特性を有する。しかし、これまで我が国のモノづくりの一大集積拠点として県北部を中心に電機産業、輸送用機器産業、石油化学産業が県経済をけん引してきたが90年代以降のグローバル化の進展で成長に陰りが見られ、精密加工等既存技術を高度化、応用用途開発で成長が期待できる宇宙航空産業、バイオ・メディカル産業の為替変動など外部要因に左右されにくい産業の育成を模索、県の重点施策と捉えており県南部においては、観光が主で伊勢神宮の式年遷宮効果、熊野古道世界遺産指定10周年効果が期待できるものの第一次産業、第三次産業とも総じて不振であり構造的に南北問題の課題を抱え今日に至っている。特に、伝統的地場産業で急速に進む少子高齢化の影響もあり事業承継が円滑に進まず、また廃業が開業を上回り産業基盤、地域経済の基盤が大きく揺らぐ原因となっている。地域の疲弊常態化からの脱却なくして地域の活力、地域社会の支え合いの構図は生まれてこない。

2011年4月、担当指導教員が企業人から大学人への転身を機に地域社会において経営学の視点から科学・技術・工学・市場を戦略的に先導できる起業型リーダーすなわち地域イノベーションを創発できる人材が最も不足していることを痛切に感じられ本学任用とともに戦略経営ゼミを発足させた。そこで本ゼミでは、2つのC I P O (Chief Intellectual Property Officer 知的財産統括責任者、Chief Initial Public Offering 株式新規上場準備統括責任者・D i P Oと東村命名)人材の養成を教育目標とし、その手法をゼミ学生が設立した夢追プロの事業活動を通して実践し地域社会でのフィールドワークから経営を見る眼を養い地域社会を主導できる起業型リーダーを目指している。